

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	16-308-	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
Is Specialized Integrated Treatment for Comorbid Anxiety, Depression and Alcohol Dependence Better than Treatment as Usual in a Public Hospital Setting? 不安、鬱病とアルコール依存症の共存症に対する専門化し統合した治療は、通常の公的病院での治療より効果があるか？		
執筆者		
Morley KC, Baillie A, Leung S, Sannibale C, Teesson M, Haber PS.		
掲載誌		
Alcohol Alcohol. 2016 Jul;51(4):402-9.		
キーワード		PMID:
認知行動療法、統合治療、アルコール依存症		26672793
要旨		
<p>目的: アルコール依存症に共存する不安や気分障害に対する専門化し統合した 12 週間の介入治療の効果を外来患者病院の設定で無作為に評価する。</p> <p>方法 アルコール依存症の包含基準を満たし共存症の不安および/またはうつ病の疑いの 86 人の患者のうち、57 人が 3 週間の安定化期間(断酒または有意に減少した飲酒量で)を完遂した。この患者のうち 37 人(65%)は不安および/またはうつ病と正式に診断評価され、アルコール、不安および/またはうつ病に対する、(a) 統合された介入(認知行動療法)、または (b) 通常のカウンセリング・ケアにランダム化された。</p> <p>結果 intention-to-treat 解析により、統合した治療は、通常のカウンセリング・ケアに対して、再発するまでの日数($\chi(2) = 6.42, P < 0.05$)と再発率($\chi(2) = 10.73, P < 0.01$)において、有益な治療効果を明らかにした。加えて、治療の効果と断酒した日数のパーセンテージ($P < 0.05$)に有意の相互関係があった。暴飲日に関して、治療効果は DASS 不安スコア($P < 0.05$)の変化により媒介された。有意の治療交互作用効果は DASS 鬱病または不安症状のためにはなかった。</p> <p>結論: これらの結果は、アルコール依存症と共存症の鬱病/不安障害患者のために飲酒結果を改善する際に、サポートを統合した治療に提供する。</p>		